

第8回 I o P 推進機構理事会

議事録

日時：令和4年2月21日(月) 13:00～15:00

会場：オンライン

1 開会

- ・理事長挨拶

2 議事

【高知県施設園芸農業の飛躍的發展】

1) IoP クラウドの構築、活用、普及等の進捗状況

2) IoP プロジェクト推進チームの活動状況

(資料1、2を基に岡林事務局長から説明)

(野島理事)

SAWACHI の普及によって新規加入をされた方もいるかと思いますが、新規加入の方にも情報共有は同等に行われているのでしょうか。

SAWACHI に追加された機能に興味を持たれている農家の方もおられますが、出荷量が反映されていないなどの相談を受けることもあり、推進にももっと力を入れて欲しいと思っています。また、JA 以外へ出荷をされている方もいらっしゃるので、そういった方の加入についても伺いたいです。

(岡林事務局長)

お申込み頂ければ JA 出荷の有無に問わず対応します。

現在はコロナウイルス感染症拡大の影響もあり積極的な新規加入募集を行っていませんが、状況が落ち着き次第、出荷場ごとに説明会を行うなどの活動を開始し、新規加入者を募っていく予定です。

お問い合わせは、お近くの農業改良普及所か農業イノベーション推進課 IoP 推進室にお願いします。

また複数人の生産者グループで申込をして頂ければ、グループメンバーの間でデータ共有ができる機能もありますので、そちらも是非、検討頂ければと思っています。

(野島理事)

現状で、私が SAWACHI で見られているような出荷量画面などは、これから加入される方もご自身のデータで見ることができるということですね。

(岡林事務局長)

加入して頂ければ、JA に出荷されている方は出荷量を見ることができます。市況、気象もご覧頂けますし、センサーとカメラを SAWACHI に接続して頂ければ、説明の際にお見せした機能は全て利用できます。

(武市理事長)

コロナウイルス感染症拡大の状況が落ち付いた段階で、普及活動を具体的に進めていく予定ということでしょうか。

(岡林事務局長)

各 JA や出荷場、生産者の研究会などに赴いての説明会開催を検討しています。

(武市理事長)

問合せ先は告知していないのでしょうか。

(岡林事務局長)

SAWACHI にお問い合わせ機能も付けておりますし、SAWACHI ニュースには毎回、電話番号を記載しています。

(武市理事長)

もし今後、農家さんから SAWACHI について相談を受けた場合は、問合せ窓口へ連絡をとご案内して良いということですね。

(岡林事務局長)

普及指導員に伝えて頂ければ窓口へ取り次ぎすると思えますし、直接、農業イノベーション推進課 IoP 推進室へご連絡いただいても大丈夫です。

【施設園芸関連産業群の集積】

3) 各部の取組状況 (農業振興部、商工労働部、産業振興推進部)

(資料 3 を基に岡林事務局長、岡田理事、三浦理事から説明)

(松島理事)

商工労働部のオープンイノベーションプラットフォームは、課題ベースでその解決のためのソリューション、ビジネスの開発を支援するという仕組みだと思えますが、将来的には IoP クラウドを活用した新たなビジネスの創出の支援を検討して頂く必要があると思われます。その点についてのお考えをお伺いしたいです。

(岡田理事)

オープンイノベーションプラットフォームは地域の課題をデジタルを使って解決するためのシステムとなっており、ビジネス面はそれぞれの取組に応じた対応をしていく形になると思えます。

事業化に繋がりそうな案件がある場合、我々は関係者間のマッチングに注力し、実際の取組は民間事業者様になります。あくまでもサポートという形で後押しをさせて頂くという流れになります。

(松島理事)

IoP クラウドを活用した具体的なビジネス構想が民間企業との関わりの中で生まれてきた時には商工労働部に相談をし、その実現に向けて、マッチングの協力や利用可能な補助金の情報などをご共有いただけるというようなイメージでしょうか。

(岡田理事)

是非、ご活用頂ければと思います。

【プラットフォームの展開】

- 4) 今後の IoP 推進機構、並びにプラットフォーム展開の検討について
(資料 4 を基に松島理事から説明)

(岡田理事)

施設園芸関連産業群の進め方について、農業振興部と商工労働部をメンバーとし、社会実装に向けた実証事業に取り組むというイメージがあるかと思いますが、産業振興推進部でも活用できる補助金などがあると思いますので、活用できるものは全て活用し事業化に向けて取り組んでいければと思います。

(三浦理事)

メンバー確保に係る調整は必要ですが、産業振興推進部もメンバーに加えて頂ければと思います。

(松島理事)

施設園芸関連産業群の進め方については農業振興部、商工労働部に加え、産業振興推進部にも関わって頂いて検討していければと思います。

(武市理事長)

IoP プロジェクトの目的に掲げた Next 次世代型連携プラットフォームの構築、運用に向け山積する課題を、高知県 Next 次世代型施設園芸農業に関する産学官連携協議会で共有させて頂きました。そして、課題解決や目的達成に向けての組織のあり方などを受田事業責任者と協議を重ねていることについて、前回の IoP 推進機構理事会においてご報告いたしました。

それ以降も受田事業責任者とは協議を重ねており、展開枠との連携なども考慮しつつ、松島理事がご説明くださったような方法で進んでおります。

(受田事業責任者)

IoP 推進機構としては、これまで武市理事長の元、営農支援事業、関連産業育成事業については完全に道を付けていただきました。プラットフォーム展開事業がここから更に育成されていく事になると思います。他地域への展開や域内における他産業への波及という部分が少しずつ形になっていけば、このプラットフォームが持っている我々の想像を超えた価値が具体的にイノベートされていくと思います。現状としては、それらの価値が生まれつつある状況と認識していますので、IoP 推進機構のプラットフォーム展開事業についても、今のような体制の中でまず描いて頂き、さまざまな具体的方策を展開枠の中に盛り込めるかどうか、次年度、皆さまにご意見を頂ければと思います。

武市理事長には、IoP 推進機構において意見を頂いて展開枠に向けてのさまざまな準備にお力添えを頂きたいと思います。

(武市理事長)

特にプラットフォーム展開については、まだまだこれからいろいろな事を考えながら進めていかなければならない中で、今考えられる最適の方法で進めていけるのではないかと考えています。

高知県の施設園芸農業の飛躍的発展と施設園芸産業群の育成・集積については農業振興部を中心に SAWACHI の構築など、着実に結果を出して頂いているので引き続きお願い

していきたいと思っています。

5) プラットフォーム展開の現段階の構想（展開枠申請に向けた構想）
（資料5を基に岡林事務局長から説明）

（武市理事長）

展開枠はチャンスとして捉え、挑戦しています。是非、展開枠の対象となれるよう頑張りたいと思っていますので、よろしくお願いします。

本県施設園芸農業の飛躍的発展と施設園芸産業群の育成・集積については農業振興部を中心に商工労働部、産業振興推進部、オール高知県で積極的に進めて頂きつつ、プラットフォーム展開については、IoP共創センターと協働しながら進めていこうと考えています。

（石塚理事）

展開枠におけるIoP共創センターの役割は十分に理解しています。

海外展開を含む県外の展開を実現するために、研究機能としてのIoP共創センターを中心に取り組む部分が必要だと感じています。一方で、民間企業と協力して取り組まなければならない部分も出てきますので、大学発ベンチャーという形で、現在立ち上げに向けて検討を進めているところです。ここで、県内企業とも連携をして取り組んでいくという事になるのですが、県外展開するうえで高知県の強みというのは植物生理・生体情報の見える化のノウハウであり、その部分を担うのはやはりベンチャーしかないのではと思っていますので、そこを基軸に取り組んでいきたいと考えています。

（内田顧問）

プラットフォームの外商に関しては賛成です。

しかしながら、外部資金を得るためには何かしらの権利活用が必要になります。

権利活用と言っても出願して権利化するという方法だけでなく、ノウハウという形の権利化もありますので、どこかで高知県にお願いをしないとできない部分、その部分を有料化するという形で進めて頂ければと思います。

もう一点、大学発ベンチャー、大学発スタートアップの部分について、このプロジェクトを更に進めていこうというお話は、とても良い案だと思います。

そうすると、どこかの大学にベンチャーキャピタルを作らないとスタートアップの資金繰りに困りますので、そういった検討が必要であればお声掛け頂ければと思います。

（石塚理事）

資金調達方法は多様にあるほうが良いと思われまますので、ご相談させて頂きたいと思っています。

（内田顧問）

大学発系のVCは難しい部分が多いので、お手伝いできればと思います。

（上羽顧問）

外商という方向性については、二年ほど前からお話していたように思います。

特許や知財をこういった形で固めていくことは可能ですが、きっちりと固め過ぎてしまうと高知県にしかできず他県ではできないということになってしまい、他県はそれを見て自県で開発しようとし、高知県のものは結局ガラパゴス化してしまうということが有り得ると思います。ですので、他県展開というのは賛成です。

外貨を稼ぐという目的も重要だと思いますが、IoPプラットフォームというのはスマート農業を行うためのインフラになる部分ですので、その部分を全部独占するというのは

困難ですから、ガラパゴス化しないように広報し、オープンにして他県へ展開していくという考え方、進め方がふさわしいのではないかと思います。

他県への展開となると、高知県内のデータを提供して頂いた農家さんが感じる不安感や不信感を払拭するために、システムは提供するけれど、データは提供しないということと、高知県の競争優位性をそぐような動きではないということを丁寧に説明していくことが重要だと思います。

(岡林事務局長)

データやノウハウの共有となると、コンセンサスを得られない部分がまだまだあります。システムを共有するといってもデータが流出するのではないかと不安の声が農家さんだけでなく JA からも上がっています。

そういった部分を高知県データ駆動型農業推進協議会が立ち上がりましたので、そこでしっかりと精査をし、決定していきたいと思っています。

高知県としても契約関係などをきっちりとしたうえで連携できる形にし、win-win の取組として展開していければと思っています。

今後も検討を重ね、進めていきたいと思っています。

(受田事業責任者)

展開枠についての補足ですが、予備審査から更に修正を図ったものを内閣府に対して提案をしなければならないということで、それに係るヒアリングの日程が固まりつつあります。

来年度の早い時期に申請の評価、審査が行われる可能性がありますので、のんびりはできないというのが実態かと思っています。

【その他】

6) 設置要綱の改正案について (資料 6 を基に岡林事務局長から説明)

(武市理事長)

設置要綱の改正及び理事の任期延長について、ご了承頂けますでしょうか。

ご意見等が特にないようでしたら、ご了承頂いたものとし、御礼申し上げます。

残り一年、引き続きよろしく願い申し上げます。

3 閉会